

学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業に必要な所定の単位を取得し、下記の資質・能力を修得した学生に学位を授与します。

(1) 学部

1. グローバルな視野を持って国内外の社会の動向に関心を持ち、多様性を尊重しながら、それぞれの専門領域で求められる知識・技能を身につけることができる。
2. 修得した知識や技能をそれぞれの専門の領域における課題を解決するために生かすことができる。
3. 「感恩奉仕」の精神に基づき、他者を尊重し、他者のために自分が修得した能力を感謝の気持ちと共に主体的に還元できる。

1) 共通教育

1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力
2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身につける力
3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力

(2) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. 国際社会や実務で通用する英語の4技能・5領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。「知識・技能」
 - ①英語の4技能・5領域の修得
 - ②実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。
2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。「思考力・判断力・表現力」
 - ①英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学への深い理解を身に付ける。
 - ②国際的で学際的な視野が持てる。
3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身に付ける。「主体性・多様性・協働性」
 - ①社会の課題を自分事として捉え、自分の行動につなげることができる。
 - ②自分と異なる人や文化を尊重でき、多様な人々と関わるすることができる。
4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
 - ①社会の出来事や課題に関心を持ち、それを発信・説明することができる。
 - ②獲得した知識やスキルを活用し、課題解決につなげることができる。

2) 保育・幼児教育専攻

1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場に必要な専門的知識を

身に付け、現場等で活用することができる。「知識・技能」

2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。「知識・技能」
3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

3) 児童教育専攻

1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身につけ、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。「知識・技能」
2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握するために、様々な情報を効果的に活用するスキルを生かしながら、適切に児童等を指導することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

(3) 心理臨床学科

1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個別性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見された課題とその解決方法を適切に発信することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成方針

(1) 共通教育

1. 初年次教育領域

- ①自ら課題を発見して思考・判断することができる。
- ②適切な表現方法を身に付けている。
- ③他者と共有・解決のための行動・発言をすることができる。

2. キリスト教領域

- ①人を尊重し、いのちを育んだり慈しんだりする態度を身に付けている
- ②キリスト教精神に基づいて真に平和な世界を創り出そうとする態度を身に付けている。

3. 教養コア領域

- ①地元地域や多様な文化・社会を理解して貢献しようとする態度を身に付けている。

4. 一般教養領域

- ①社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（人文科学）
- ②社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（社会科学）
- ③社会を生き抜くために必要な教養を身に付けている。（自然・情報科学）

5. 健康・スポーツ領域

- ①身体的な健康・安全に関する教養を身に付けている。

6. 外国語領域

- ①外国語でコミュニケーションをとることができる。

7. 体験学修領域

- ①社会や異文化で生活・活動するために必要な知識と技能を身に付けている。

8. キャリア教育領域

- ①社会的・職業的自立を図るために必要な教養と態度を身に付けている。

(2) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. グローバルにも活かせる英語力とビジネスリテラシー

高度な英語運用能力とグローバルな視野を持った学生を育成するために、少人数の習熟度別英語クラスを編成し、1、2年次では英語の4技能・5領域をバランスよく伸ばすために週2～3回の集中的な授業を行います。また、同時に英米社会を幅広く学ぶ科目やビジネスに関する理解と基礎知識に加え、我々の周りに溢れる様々なデータを適切に分析し可視化するスキルを学ぶためのデータサイエンス関連科目も開設します。3年次からは、少人数ゼミと並行し、専攻内の2つのコースと関連する、より専門的で高度な科目群を開設し、学生の専門的知識やスキルを育みます。

- 代表的な科目：「Advanced Communication English I～IV」「Communication English I～IV」「リーディング&ライティング演習 I～IV」「グローバルビジネスI～IV」

「エアライン・ツーリズム講座」「データサイエンス応用」等

2. 知識の実践と体験学修

国内や海外の様々な出来事や動向に関心を持ったグローバル人材になるためには、修得した実践的な英語運用能力、異文化や社会についての知識、国内外のビジネスについての知識を実際の場面で実践することが必要です。さらに高度な英語コミュニケーション科目やビジネス系の科目、データサイエンス関連科目などで英語やビジネス、データサイエンススキルを磨き、企業等でのインターンシップ、小学校英語活動、教育実習、教育現場体験等の様々な体験学修を通じて知識と実践力の融合を図ります。

■代表的な科目：「スピーチ&ディベートⅠ&Ⅱ」「ビジネス・イングリッシュⅠ&Ⅱ」「国際ビジネス論」「企業経営論」「プロジェクトデザインⅠ&Ⅱ」「データ解析演習」「プログラミング応用」「小学校英語フィールドワーク」等

3. 多様性の理解と表現する力

グローバル化が進む現代では、異なった価値観や海外の文化に対して関心と理解を持ち、自己の意見を積極的に発言・発信できる力が必要となります。また3、4年次では、それまでに身につけた専門知識やスキルを活かして、議論したり表現したりする双方向のコミュニケーションを高めるための授業や、学生自らが発見したテーマや課題について研究し、成果をプレゼンテーションできるようなゼミを行います。

■代表的な科目：「異文化理解Ⅰ&Ⅱ」「Global Issues in English」「Cultural Comparisons」「Advanced English Project」「特別研究」「卒業研究」等

2) 保育・幼児教育専攻

1. 保育・幼児教育の専門性と人間性

保育・幼児教育に携わる者の倫理観、専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

■代表的な科目：1年次「キリスト教Ⅰ・Ⅱ」「哲学」「教育原論」2年次「保育原理」「キリスト教と倫理」3年次「キリスト教保育」「キリスト教と文学」

2. 保育・幼児教育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実際を結び付ける実践力の育成を目指します。2年次以降に始まる保育実習、幼稚園教育実習前に関連科目を配置し、これまでの学びを基に、実際についての理解を深めるとともに、指導案作成、模擬保育等を通して実践的な力を身に付けます。

■代表的な科目：1年次「保育内容（総論）」「こどもと言葉」「こどもと表現Ⅰ・Ⅱ」2年次「保育実習指導Ⅰ」「ルーテル系幼稚園等現場体験学修」「保育実習Ⅰ」3年次「保育実習指導Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習Ⅱ」4年次「子育て支援フィールドワーク」「異文化体験学修」等

3. 乳幼児理解と技能教科の充実・強化

乳幼児理解と保育・幼児教育に必要な表現（音楽・造形・身体・環境構成等）の基本的な知識と技能の向上を深めます。

■代表的な科目：1年次「器楽Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（表現Ⅰ・Ⅱ）」

2年次「音楽表現Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容（健康）」

3年次「音楽表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法Ⅲ」を設置し、様々な表現方法を学び、実践します。4年次「音楽表現Ⅲ」

4. 研究的視点の醸成

3年次後期から、それまでに身に付けた専門知識をもとにして、学生自らがテーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動で課題に取り組みます。3年次後期に「特別研究」、4年次に「卒業研究」を配置し、それらを通して課題を探究し、考察します。

3) 児童教育専攻

1. 2つの教員免許状カリキュラムの配置と取得

小学校教諭一種免許状を取得できるカリキュラムの配置を基盤として、これを基礎免許状とした特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の教諭を目指す特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得できるカリキュラムを配置します。

2. 4年間を貫く教師力向上のための体験及び実習

初年次から4年間を通して地域の多様な教育現場を知り、学校教育の実際から指導・支援についての理解を深め、実践力を身に付けるために、地域の学校の協力のもと、さまざまな現場体験や実習（「小学校教育実習」「特別支援学校教育実習」等）を行う機会を各学年において配置し、小学校及び特別支援学校の教師としての総合的な資質向上を目指します。

3. 確かな児童理解に基づいた指導力を育成する授業科目

いじめや不登校等、多様化する教育課題に対応できる実践的指導力を育成するため、児童理解に基づく児童等への指導、キャリア教育及び教育相談等の理論及び実践に関する科目を配置します。

4. 小学校教師としての指導力を高めるための授業科目の配置の工夫

各教科について小学校教諭一種免許状に位置づけられた科目を教育実習の授業実践につながるよう初年次から3年次までの教育実習前に関連科目を配置し、教科内容の理解を深めると共に、指導案の作成、模擬授業等により、ICT等を活用した実践的な指導力を高められるようにします。

5. 多様なニーズの場での特別支援教育が実践できるための科目内容の工夫

特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の科目においては、特別支援学校や特別支援学級における教育だけでなく、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童等に対する教育が実践できる内容を取り入れます。

6. 児童教育及び特別支援教育に関する課題の探究と考察

3年次後期から、学生の希望により担当者を決め、テーマを設定して取り組むゼミ形式の

研究活動「特別研究」（3年次後期）及び「卒業研究」（4年次通年）を配置し、児童教育及び特別支援教育に関する課題を探究し考察します。

(3) 心理臨床学科

1. 共通教育では、基本的に人・社会・自然科学分野の科目を幅広く学びます。さらに、心理学やソーシャルワークの専門的理解の土台を築くことを目指すため、心の理解、障害の理解、社会福祉に関係する制度や法律などに関わる科目、対人援助専門職に相応しい姿勢・態度を培う科目を用意しています。例えば、「人間と障害」「ソーシャルワーク論」「法学」「人権論」などです。
2. 専門教育では心理学とソーシャルワークの基本的な考え方を身につけてもらうため、全員に1・2年次の心理学と精神保健福祉学の導入科目を必修としています。必修科目「心理臨床学の基礎」では、教員の研究・実践活動、公認心理師・精神保健福祉士として働いている卒業生、その他一般企業に就職している卒業生の講話を聴く機会を設け、コースや進路の選択を後押ししています。また、学生が心の健康を保持していけるように、学生全員が「認知行動療法」という科目でストレス対処の技法を学びます。専門分野への理解を深めながら自分の興味関心にあったコースを2年次後期に選択する制度をとっています。
(レイト・スペシャライゼーション)。
3. 心理学コースの専門教育は、公認心理師の資格取得に必要な科目を履修・取得することを目標としています。医療・福祉・教育・司法・産業領域における心理学の各論の他「心理的アセスメント」や「心理学的支援法」などで心の健康や支援のあり方を学修します。これらを基本として「心理演習」で心理的支援が必要な方を支援につなぐ方法や他職種との連携のあり方や技術等を学び、「心理実習」を通して多様な場面で活かせる実践力を養います。
4. 人間科学コースでは、自分の興味・関心・ニーズにあわせて、人間の総理解につながる学びを自由にカスタマイズできます。一般企業への就職や心理・福祉の研究者を目指す学生のために、人間の心理や社会動向を定量的に計測する心理社会調査やデータ解析関連科目（例えば、「心理学研究法」や「心理学統計法」等）を系統的に配置し、その過程で社会調査士や認定心理士（心理調査）資格も取得できます。そして「人間科学研究実習」では、人間とその心に関する調査を企画して定量的・定性的に分析した成果を内外に報告するまでを体験して人間の持つ可能性と多様性への理解を深めます。
5. 精神保健福祉コースは、精神保健福祉士資格取得に必要な科目を履修・修得することを目標としています。資格取得に必要な科目（例えば、「精神保健福祉の原理」や「ソーシャルワーク実習」等）を通して、ソーシャルワークの視点で現代の精神保健福祉の課題とその解決方向について学び、ひとりひとりの心の健康を社会との関係として解釈し、心の健康を取り戻していくための知識と実践力を身につけることができます。また、精神保健福祉士受験資格だけでなく、それを前提としたスクールソーシャルワーカーになるための科目（例えば、「学校ソーシャルワーク論」や「学校ソーシャルワーク実習」等）も用意し、医療・福祉・教育・司法・産業領域、および地域で幅広く活躍できる精神保健福祉士の養成を

目指しています。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針を理解し、以下のような意欲・態度・資質を備えた人を学生として受け入れます。

(1) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. 英語に興味があり、英語力を伸ばしたい人、英語力やデータサイエンスの知識を活かした職種に就きたい人
2. ビジネス分野や持続可能な社会づくりに関心がある人
3. 異文化やグローバルな課題に関心があり、多様な環境で活躍したい人
4. 学ぶ意欲があり、異なる人々と関わりながら、社会で活躍するためのライフスキルを身につけたい人
5. 英語教育（中・高教諭やこども英語教育）に関心がある人

2) 保育・幼児教育専攻

1. 子どもと子育て家庭への支援力を持った保育者を目指す人
2. 保育・幼児教育に興味・関心をもって深く学び、専門的知識・技能を身につけ、将来保育者として活躍したい思いを持つ人
3. 子どもを取り巻く世界や文化、保育・幼児教育に関心を持ちその成長を支援したい人

3) 児童教育専攻

1. 優れた洞察力と豊かな個性・行動力を持った人
2. 教師を目指す上で十分な基礎学力を身につけている人
3. 知識や技能を活用して課題を探究し、その解決に向けて考察できる人
4. 児童等の成長を喜び、将来、教師として児童等の教育に関わりたいという強い意志を持っている人
5. 豊かなコミュニケーション能力を持ち、多様な人々と協働して様々な問題に積極的に取り組める人
6. 教育に対する熱意と使命感を持っている人

(2) 心理臨床学科

1. 人の心と行動、人と社会との関係について関心を持っている人
2. ひとりひとりがかけがえのない存在であるという考えに基づき、人間の尊厳に対して強い関心を持つ人
3. 心の問題・精神保健福祉・スクールソーシャルワーク・社会問題に関心を持っている人